日刊ゲンダイ　１０月２４日

名医が答える

病気と体の悩み

矢野大仁　脳神経外科医

認知症の行方不明者が増加中　どう対応すればいい？

認知症の方の行方不明件数が年々増加しているのはご存じでしょうか。警察庁によると、2022年の認知症による行方不明件数は1万8709人と過去最多を記録し、統計を開始した12年と比較して倍増しています。増加の背景には、近隣住民とのつながりが希薄になり、行方不明になっても気付かれにくいことが挙げられます。さらに、近年は核家族化が進んで「認認介護」と呼ばれる認知症の人が認知症のパートナーを介護しながら生活しているケースが少なくない。行方不明者届を出すのが遅れ、発見に時間がかかるといった問題もあるのです。

とりわけ注意したいのが、発症前の性格が活動的で行動範囲が広かった人です。認知症の方は、ただ外に出たいからというわけではなく、目的を持って外出します。かつて営業マンだった人であれば営業回りに行こうとスーツを着るなど、きちんとした身なりで出かけるので、周囲の人も認知症だとは到底気付きにくいのです。

以前、私が勤務する病院でも、脳卒中による高次脳機能障害で認知機能が低下した70代の患者さんが病棟からいなくなり、職員総出で捜索した経験があります。

その方は病院のパジャマ姿で外出されたので市民の方が違和感を覚えて警察に通報し、幸い何事もなく無事に保護されました。

足腰が元気な人であれば、徒歩だけでなく電車やバスを乗り継いだり、時には新幹線を利用して自宅から遠く離れた場所まで移動してしまう。保護されないまま放浪すると、不慮の事故に遭ったり感染症や栄養失調、低体温症になる危険性もあります。

また、現金は持ち歩いていても身分証を常に携帯する人は少ないので、発見されたとしても家族に連絡がつきにくく、他県で身元不明として保護され、その地域の介護施設で何年も暮らしていた事例も報告されています。

行方不明を防ぐために、本人が外出しようとしたらすぐに気付けるよう玄関のドアに鈴をつけておくといいでしょう。また、認知症を発症すると自宅に帰ろうと夕方にソワソワする「夕暮れ症候群」を起こしやすい。本人を満足させるために家族は散歩に付き合い、不安な気持ちに寄り添うと気が紛れて落ち着きます。

自治体によっては、認知症の方の情報が入ったQRコードが書いてあるシールを発行しています。普段履いている靴や服に貼っておくと、万が一、行方不明になっても、早期に発見できる可能性が高くなります。

他にも、「SOSネットワーク」と呼ばれる認知症の方が行方不明になった際に、警察だけでなくコンビニや薬局、ガソリンスタンドなど地域の関連団体と協力していち早く自宅に帰宅してもらう、また身元が明らかになるまで安全に保護する取り組みを行っている地域もあります。認知症と診断されたらお住まいの市役所や地域包括支援センターに問い合わせ、登録しておくといいでしょう。

マやの・ひろひと　1990年岐阜大学医学部卒業後、岐阜大学医学部付属病院、2005年チューリヒ大学脳神経外科留学、20年木沢記念病院を経て22年から現在の中部脳リハビリテーション病院に至る。